管理組織・運営

現　状

平成10年10月に大学審議会が纏めた「21世紀の大学像と今後の改革方策について」—競争的環境の中で個性が輝く大学—と題する答申書の中で、“責任ある意志決定と実行を速やかに行いえるよう組織運営体制の整備"を提言している。

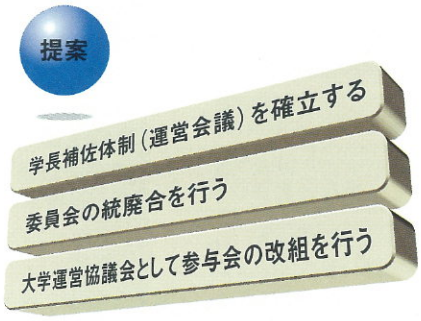
本学は単科大学であるので総合大学でみられるような各学部間の調整を要しないので、教授会での意志決定は比較的速やかになされている。しかし、大学審議会答申書の中でも指摘されている如く、学長の裁量権や学長と教授会との役割分担等必ずしも明確化されていない点が存在している。そこで、本学では平成10年12月に学内構成員全体が参加する「滋賀医科大学フォーラム」を開催し、管理機構、運営につき討議し、以下のごとき提案を纏めた。

滋賀医科大学フォーラムの提言

先ず、現在の組織、運営に関する問題点として、

- ◆体系的教育カリキュラム作りの体制が確立されていない
- ◆新たな学問分野や社会的要請に対応できていない
- ◆大学改革について全学的かつ機動的意志決定がなされていない
- ◆委員会が多くて、教官への負担が増え、教育研究業務に支障をきたしている
- ◆教授会での報告事項、審議事項が多岐に亘り、かつ多すぎる

などの指摘がなされ、ついで改善のために以下の提案がなされた。



組織・機構改革の試み

総合教養教育機構の設置

教育カリキュラムを6年一貫性にすべくこれまでいくつかの試みがなされてきたが、各課程間の連携が必ずしも十分とは言えなかった。本機構の設置により、1学年生への医学概論、生命科学を中心とした医学特論などのカリキュラムが新設され、臨床系医学教官の参加、著名な学外研究者による最先端医学に関する講演といった従来の枠にとらわれない教育がなされるようになっている。

各種委員会の統廃合

従来型の委員会を学長のリーダーシップが発揮できるような委員会組織に改変した。ただし、その数はなお多すぎるきらいがあり、より効率的な組織への改変が望まれる。

事務組織の改変

大学の研究活動を支援するべく“研究協力係”が、大学改革の動きを支援すべく“大学改革推進係”がそれぞれ総務部庶務課内に新設された。これまでのところ両係は効率よく機能しており、学内で一定の評価を得ている。

コラボレーションセンターの新設

図書館は学術情報の発信基地としての機能を果たしてきたが、従来型の図書館形態では急速な情報化時代に対応しきれないことは明らかであり、本学でも既に平成9年マルチメディアセンターを図書館に併設して学内ネットワークの構築・運営、学内共同研究用電子機器の管理・運用に当たっている。また、研究業績データ、研究者総覧の作成とホームページ収載を立ち上げ、学外への情報発信を行っている。

さらに、本年度にはコラボレーションセンターが新設され、こうしたマルチメディアセンターの機能を拡大すると共に地域社会への学術情報発信基地としての機能をも備えるべく準備を始めている。

教員選考システムの改変

従来は教授会メンバーのみで構成されていた教授選考委員会に助教授・講師層、助手層からの代表を加えるシステムに改められた。また、教授選考に先立って当該講座の在り方検討委員会を設けて、当該講座の必要性等につき討議するシステムを取り入れており、時代の変化に柔軟に対応できる体制を整えている。